



## ごあいさつ

院長 貝嶋 光信

今年も残り少なくなりました。今年も色々なことがありましたね。今年の最大のニュースは何といても吉野彰さんのノーベル化学賞受賞でしょう。昨年の本庶佑さんのノーベル医学生理学賞に続いての日本人のノーベル賞受賞は本当に誇らしく思います。吉野さんの発明したリチウムイオン電池は、すでに約30年前から実用化されており、今や世界の人々にとってなくてはならないものとなり、我々の生活を一変させました。世界を変えたイノベーションであり、産業革命の原動力となった蒸気機関の発明に匹敵する、まさにノーベル賞に相応しい業績と思います。さらに今年我が国で開催されたラグビーワールドカップで日本代表チーム（ブレイブブロッサムズ）が初のベスト8になったこと、とりわけ世界ランキング1位のアイルランドを撃破した試合は感動的でした。



本年を振り返るに当たり、10月の台風19号で被害に遭われた方々や今なお避難所での生活を余儀なくされておられる方に衷心よりお見舞いを申し上げます。来年が我が国にとって、また世界にとって佳い年でありますよう祈っています。

## 年末年始のご案内

**年末年始の休診日は12月28日(土)～1月3日(金)**となっております。  
患者様にはご迷惑をお掛けいたしますがご理解のほど、お願い申し上げます。  
当院の救急当番日は**12月31日(火)**、**1月2日(木)**となっております。

※緊急の場合は随時受付致します。



## 冬季期間の正面玄関一部閉鎖のお知らせ

待合室への外気侵入を防ぐため、冬季期間中（概ね11月中旬から4月末迄）正面玄関の一部を封鎖させていただき、左側出入口をご利用いただいております。ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



## 病院敷地内禁煙のお知らせ

当院の**病院建物内および駐車場、通路を含む敷地内での喫煙は禁止**となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

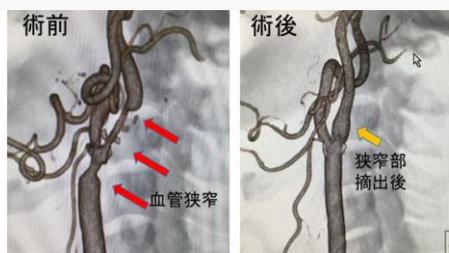


# “脳の病気”といわれたら

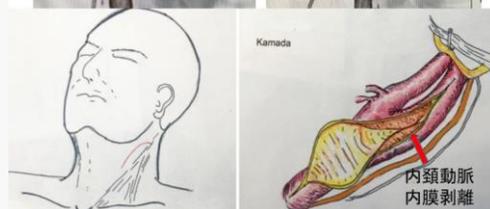
-あわてずに病気について説明を受けましょう-

副院長  
脳神経外科 鎌田恭輔

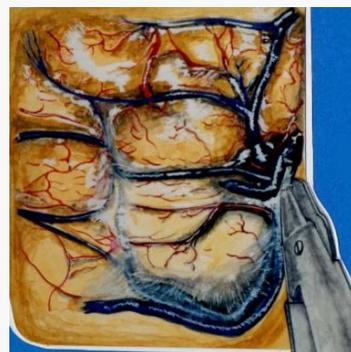
**1, 脳動脈瘤：**瘤の大きさ、部位、形状によっては、すぐに手術治療ではなく経過観察を行うこともあります。破裂する可能性など含め説明します。



**2, 脳梗塞：**不整脈、または頸部動脈が狭くなることで、この部位から血の塊が脳に飛び脳梗塞を起こす危険があります。MRI、超音波による精密検査で適切に治療できます(右図)。

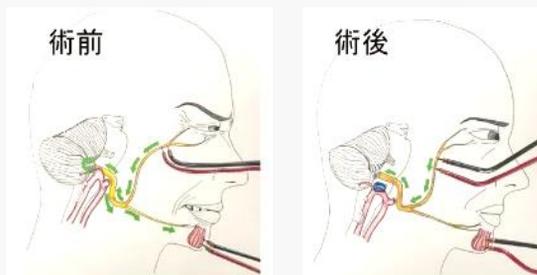


**3, てんかん：**これは全身のひきつけではありません。意識が遠のき、無意味な行動を繰り返したり、歩き回ったりと様々は複雑な行動が主体です。まず、MRI検査、投薬の調整、さらに1週間入院の上脳波検査を行っててんかん発作と脳波上の異常があることを確認します。薬で発作が抑えられないときは、MRI、脳波、頭蓋内脳波を用いててんかんの源を探ります。さらに、切除可能な領域であるかを電気刺激、脳波計測・解析を行って、正確かつ安全に病的部分のみを切除します(右図)。この方法はオーストリアの脳波・ソフトウェア会社と10年間以上の国際共同研究を行い、その成果は米国科学アカデミー誌「PNAS」に発表し、大きな反響がありました。日本では唯一 恵み野病院でこの診断と治療ができます。(2019年11月現在)



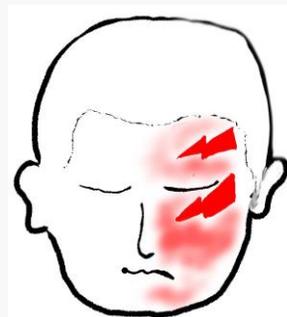
**4, 顔面けいれん・三叉神経痛：**不随意に片側の眼・口角の周囲の筋の引きつりを顔面けいれん、片側顔面の圧迫感から電撃痛などの症状がある三叉神経痛治療は脳神経に微小血管の圧迫が原因です。この治療は私の得意とする小開頭(鍵穴手術)により2時間ほどで終了し、術後1週間以内に症状は消失します。

顔面けいれん  
けいれん消失  
(術後)



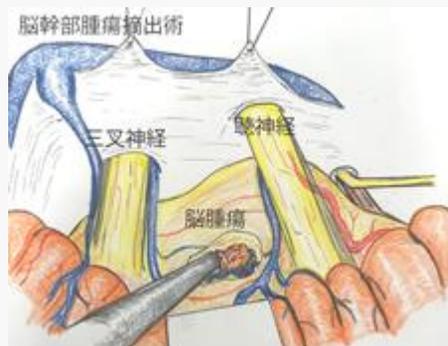
三叉神経痛

片側顔面の痛み  
(紅い部分)



## 5, 脳腫瘍 :

様々な型があり、良性腫瘍（髄膜腫、神経鞘腫 等）で経過観察となるもの、または手術の必要な神経膠腫、転移性脳腫瘍などがあります。すでに意識障害、麻痺などの症状が出てきている段階では手術による切除も考慮します。必要に応じて放射線治療なども行うこともあります。診察により詳しく説明いたします。



## 資格 :

1, 脳神経外科 専門医 2, 脳卒中 専門医 3, 日本脳卒中の外科学会技術指導医  
4, 日本てんかん学会専門医・指導医

## 経歴 :

1988年 北海道大学 脳神経外科  
1992年-1994年 北海道大学 電子科学研究所 客員研究員  
1995年 北海道大学 医学博士号を取得  
エアランゲン大学 (ドイツ) 留学  
1997年 ジョージタウン大学(米)、認知コンピュータ研究所 助手  
2003年 東京大学 脳神経外科 助手  
2006年 同 講師  
2010年1月- 2019年 旭川医科大学 脳神経外科 主任教授  
2017年6月 スタンフォード大学 (米) 脳神経外科客員教授  
2019年3月 北農会 恵み野病院 副院長  
2019年4月 ATR 国際電気通信基礎技術研究所

個人ホームページ : <https://www.drkyousukekamada.com/>



## 手術症例 :

脳動脈瘤クリッピング術 : 527 例  
内頸動脈内膜剥離術 : 340例  
顔面けいれん : 185 例  
三叉神経痛 : 153 例  
頭蓋内外バイパス術 : 104例  
てんかん手術 : 63件  
脳腫瘍 : 1230例  
髄膜腫 : 322例、聴神経鞘腫 : 92例、脳原発腫瘍:561例、  
脊椎・脊髄などを含むその他 : 252例



## 病院敷地内禁煙のお知らせ

当院の**病院建物内および駐車場、通路を含む敷地内での喫煙は禁止**となっております。  
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



恵み野病院ホームページアドレス : <http://megumino.or.jp>



# 『こんにちは 地域医療連携室です』

地域医療連携室 松井 靖

地域医療連携室は、恵み野病院の正面玄関を入るとすぐ右手に入口があります。現在、地域医療部（部長 橋本副院長）に属し、医療相談係と医療連携係の2つの係で業務に当たっております。もともと医療相談室と地域連携室は別々な部所として機能していましたが、平成20年より、統合し、地域医療連携室となっています。

担当の職員は、医療相談係は、医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）6名（1名育児休業中）医療連携係は事務員4名で業務にあたっています。医療職として看護部より1名の看護師の支援を受けています。



医療連携係は、主に地域のクリニックや病院からの診察・検査予約、他機関への検査予約・診察予約の対応を実施しています。地域の機関から診療情報提供を受け、院内の医師の調整をし、予約票を送付し、当日受付から診察室・各検査室へのご案内などを丁寧に対応させていただいております。また、当院から他機関への情報提供、検査や治療の調整を行いその予約なども実施しております。主に入口の支援となります。

医療相談係は、患者様の状況にもよりますが、退院先やサービスの相談、各病院・施設・ケアマネージャーなどの連絡調整といった後方連携（出口の部分）業務を中心に業務させていただいております。もちろん、通院中の患者様からの様々な相談も受けさせていただいております。最近では、退院に際しての支援が中心となっています。高齢化が進んでいることはもちろんですが、高齢夫婦のみの世帯や単身者も非常に多くなり、対応が難しくなっておりますが、周りの機関とも連携して支援をおこなっております。

下のグラフは、連携係で対応した紹介患者の総数の変化です。年間3000件の紹介があります。本年のデータは10月末までのものです。また医療相談係は、実数で月約1000件の対応となっております。

紹介件数



2017年, 2018年は1月～12月、  
2019年は1月～10月までのデータとなります。

相談件数

